

The Ushiku Times



NO. 42

May 8

2 0 1 7

茨城県立牛久高等学校

校長室から

4月12日（水）体育館にて

対面式・部活動紹介・壮行会

みなさん、ゴールデン・ウィークはいかがお過ごしでしたか。

期間中は天候にも恵まれ絶好の行楽日和でした。しかしながら、行楽地はどこも混雑しており家にいるのが一番という方もいらしたことでしょう。

そこで、3月に北米語学研修でカナダ・サレー市を訪れた職員・生徒について書いた寄稿文を紹介するので、ちょっと息抜きに読んでください。

～『サレーの風に吹かれて』～

「カナダってどんな国ですか？」（中略） 首都はオタワ。人口約3,517万人（2016年）。公用語はフランス語と英語。通貨はカナダドル。日本との時差は16時間（日本の方が早い）。バンクーバー、ロッキー山脈（バンフ国立公園）、メイプルシロップ、『ナイアガラの滝』。これぐらいでしょうか。否、忘れてならないのが、“Anne of Green Gables”という作品。ルーシー・モンゴメリーが書いた『赤毛のアン』（上映中）。すでに電子書籍で購入していたので、**時間を作って**読んでみようと思います。

（中略） 本校では、今年3月に引率教諭の阿部、柳田教諭、生徒17名（男子2名、女子15名）が、ブリティッシュコロンビア州のサレー市に2週間の語学研修を体験しました。（詳細は牛久高校HPの“Surrey Times”に掲載）ホームステイファミリーとの生活、語学研修、託児所訪問、ブリティッシュコロンビア大学見学等盛りだくさんの企画に、さぞかし、もっと長居をしたかったのではないのでしょうか。

帰国した生徒の何人かに話を聞くと、「もっとカナダにいたかった」とか、「ファミリーとの生活が楽しかった」という言葉でした。その一方で、「やっぱり日本がいい」とか、「普段うちの人が、自分にくれていることに改めて感謝している。」という話もしてくれました。まさしく、この語学研修の目的はそこにあるのではないのでしょうか。カナダでのホームステイを初めて体験し、時に日本の良さを改めて実感することに大きな意義があります。

（中略） 結びに、海外渡航奨励費等のご支援をいただいた牛久市国際交流協会並びに牛久市、本プログラム参加へのご理解とご協力を賜りましたご家族の皆様に深く感謝申し上げます。

追記：先日イギリスの女性 Sara Alexander（サラ・アレクサンダー）さんによって “Under a Sardinian Sky” という本が出版されました。この作家、実は、私が34年前にイギリスのロンドンでホームステイさせていただいた方のお嬢さんです。現在は、舞台女優、演出、脚本、TV出演等様々な分野で活躍しています。もちろん、この本をオーダーしました。5月中旬頃届く予定です。

私が、34年前にロンドンでホームステイしたファミリー（アレクサンダーさん一家）とは現在も交流が続いています。このことは、私にとって一生の宝物であり、第2の故郷でもあります。

今回の雅楽研修を含め、これから海外研修等を考えているみなさんにも、一生涯おつき合いができるようなファミリーとの出会いを期待しております。